

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告 その1～

平成30年 8月
川越町教育委員会

本年4月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。



1. 学力・学習状況調査結果

全国学力・学習状況調査について

A問題とは、主として「知識」に関する問題です。(身につけておくべき基礎的な知識や技能)

B問題とは、主として「活用」に関する問題です。(知識や技能を実生活の場に活用する能力)

(1) 川越町小学校

□全体の傾向・・・全国の正答分布と比較して、正答率の低い児童は少なく学力の底上げが図られているが、全体的に正答率のやや低い児童の割合が多い。

国語 A : 正答率のやや低い児童の割合が多い。

国語 B : 正答率の高い児童の割合がやや少なく、正答率のやや低い児童の割合が多い。

算数 A : 正答率の高い児童の割合が少ない。

算数 B : 正答率のやや低い児童の割合が多い。

理科 : 全国及び県の正答数分布曲線に概ね近い分布となっている。

□強みと弱み (強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」)

	A問題	B問題
国語	◎慣用句の意味を理解し使える児童の割合が多い。 ◇登場人物の心情について、情景描写を基に捉える力に課題がある。 ◇問題によって、漢字の読み書きの正答率にばらつきがある。 ◇文の中における主語と述語との関係などに注意して文を書く力に課題がある。	◎全体的に無解答率が低い。 ◎話し合いの文章を読んで、相手の発言の意図を捉える力がある。 ◇目的や意図に応じて、内容の中心を明確にしてくわしく書く力に課題がある。 ◇話し合いの文章を読んで、自分の考えと比べ考えをまとめたりする力に課題がある。 ◇与えられた条件に応じて記述解答することが苦手な児童が多い。

算数	<ul style="list-style-type: none"> ◎全体的に無解答率が低い。 ◎小数の除法の問題場面で2つの数量関係を数直線に表すことができる児童が多い。 ◎空間の中にあるものの位置を正しく捉えて表現できる児童が多い。 ◇小数の除法の意味が十分に理解できていない児童が多い。 ◇百分率の理解が十分でない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎全体的に無解答率が低い。 ◎日常生活の構成要素や性質を基に観察し、条件に合う図形を見出す力がある。 ◇必要な情報を選択し数学的に処理したり、示された方法を場面に応じて適用したりすることが苦手である。 ◇複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて読み取り、表現することが苦手な児童が多い。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ◎堆積作用について、言葉と概念を理解している児童が多い。 ◇複数の情報を関連付けながら、分析して考察する力に課題がある。 ◇目的に応じた実験道具を考えたりイメージしたりする力に課題がある。 ◇物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを理解できていない児童が多い。 	

(2) 川越町中学校

□全体の傾向・・・全国の正答分布と比較して、概ね同じ分布曲線となっているが、正答率のやや低い生徒の割合が多い。

- 国語 A**：正答率のやや低い生徒の割合が多い。
- 国語 B**：正答率のやや低い生徒の割合がやや多い。
- 数学 A**：正答率のやや低い生徒の割合が多い。
- 数学 B**：正答率のやや低い生徒の割合が多い。
- 理 科**：正答率のやや低い生徒の割合が多い。

□強みと弱み（強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」）

	A問題	B問題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ◎全体的に無解答率が低い。 ◎文脈に即して漢字を正しく読むことができる生徒が多い。 ◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。 ◇目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことを苦手とする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎全体的に無解答率が低い。 ◎話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することができている。 ◇目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことが苦手である。 ◇説明文において、文章とグラフの関係を考えながら内容をとらえたり、文章の構想や展開について自分の考えをもったりする力に課題がある。

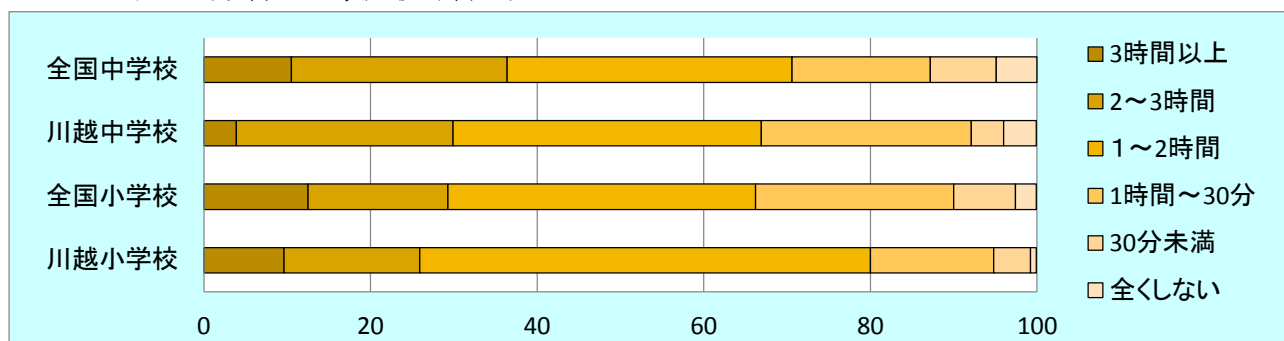
数学	<p>◎全体的に無解答率が低い。</p> <p>◎絶対値や等式の性質を用いた、基本的な数と式の領域は理解できている生徒が多い。</p> <p>◇証明の必要性と意味に関する問題や関数の意味の理解については課題がある。</p> <p>◇数量の大小関係を不等式に表すことに課題がある。</p> <p>◇確率の意味を理解し求めることを苦手としている。</p>	<p>◎全体的に無解答率が低い。</p> <p>◇与えられた情報から必要な情報を的確に処理した上で割合を求める問題ができていない。</p> <p>◇確率について理解し、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することを苦手としている生徒の割合が多い。</p> <p>◇証明において、付加された条件の下で新たな事柄を見いだし、正しく説明することを苦手としている生徒の割合が多い。</p>
理科	<p>◎全体的に無解答率が低い。</p> <p>◎原子の記号や電気用図記号など、基本的な知識を身に付けている生徒が多い。</p> <p>◎食塩水の質量に対する食塩の質量の割合（質量パーセント濃度）を表す技能を身に付けている生徒の割合が多い。</p> <p>◇気団の特徴についての知識を身に付けていない生徒の割合が多い。</p> <p>◇グラフを正しく分析・解釈することができていない生徒の割合が多い。</p> <p>◇実験結果から得た事実をもとに、新たな疑問を持ったり考察したりする力に課題がある。</p>	

(3) 児童生徒質問紙による生活調査結果

①学習時間帯

***小学生の80%が1時間以上家庭学習の時間を確保しているが、中学生は67%にとどまっている。**

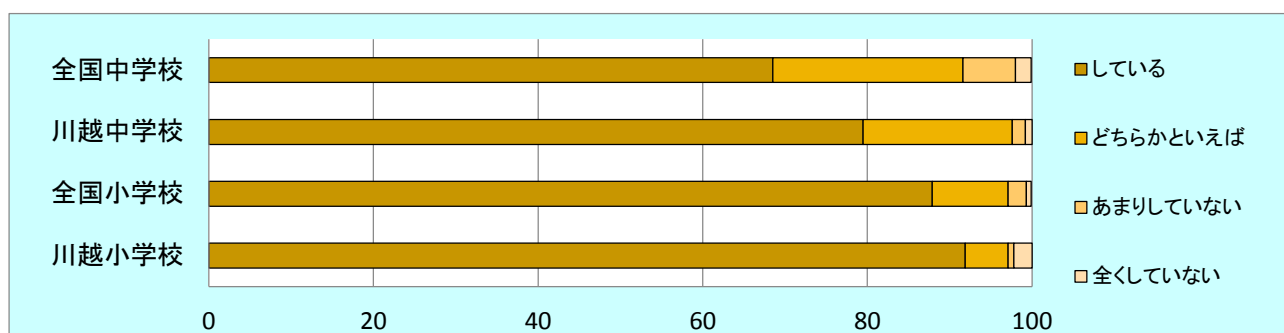
Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師含む）



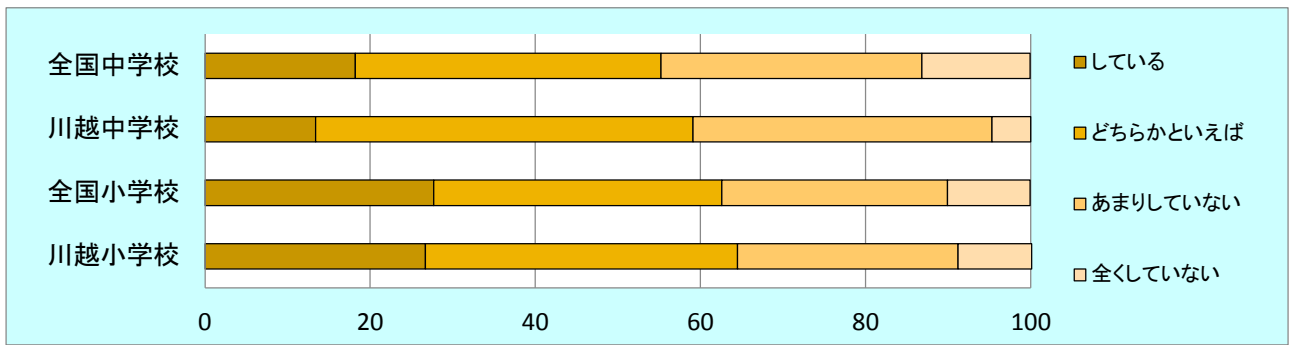
②予習・復習

***宿題についてはほとんどの児童生徒が取り組んでいる。また、約60%の児童生徒が宿題以外の予習・復習に取り組んでいる。**

Q：家で宿題をしていますか。



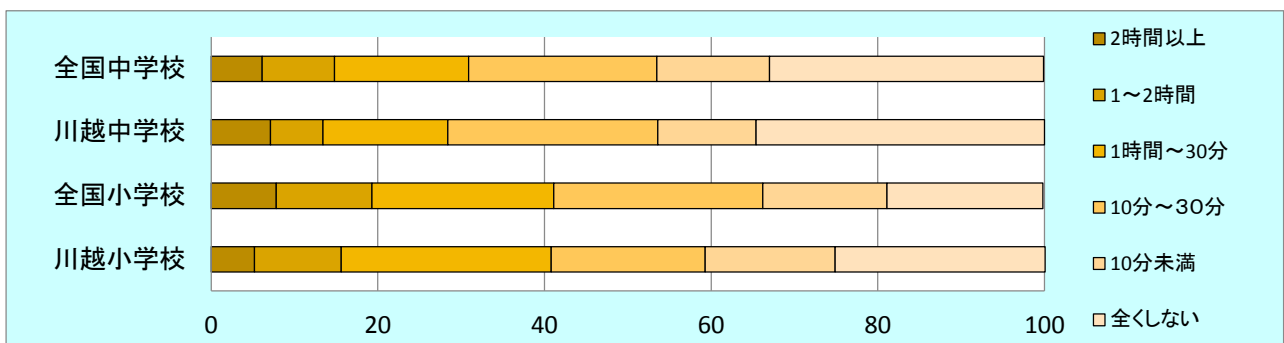
Q：家で学校の授業の予習・復習をしていますか。



③読書習慣

*半数以上の子どもたちがほぼ毎日読書をしているが、「全く読書しない」中学生の割合が多い。

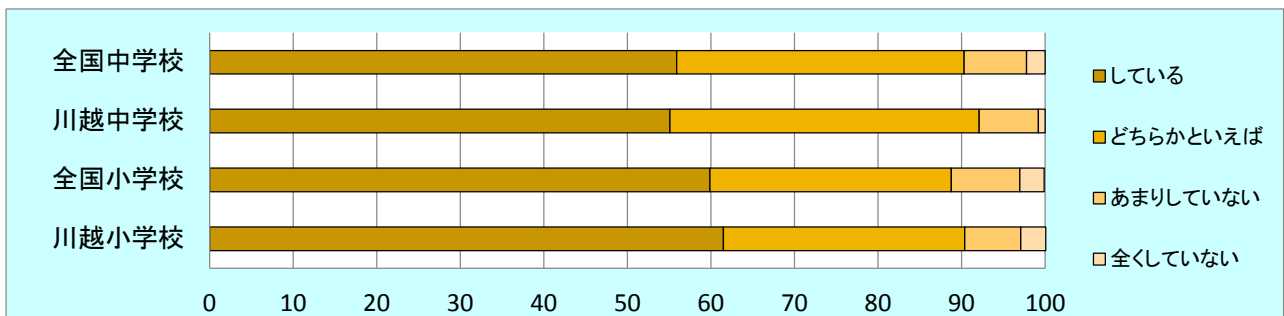
Q：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）どのくらい読書をしますか。



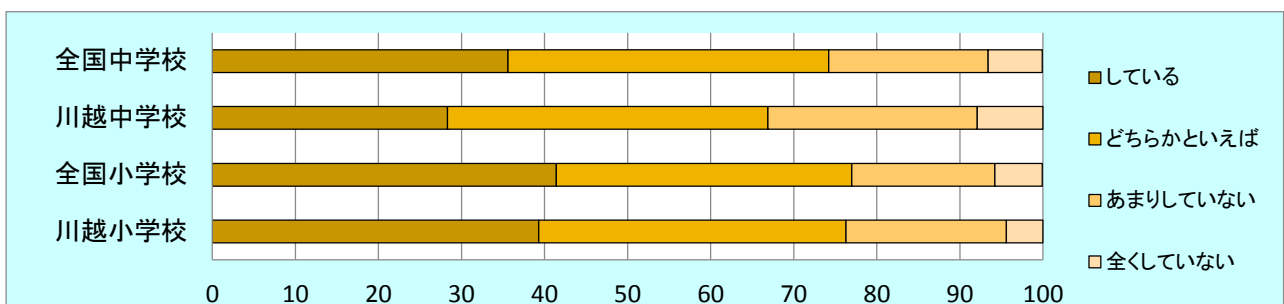
④基本的な生活習慣

*小学生・中学生ともに、ほぼ規則正しい生活が送れているが、就寝時間に関しては、不規則な中学生がやや多い。

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



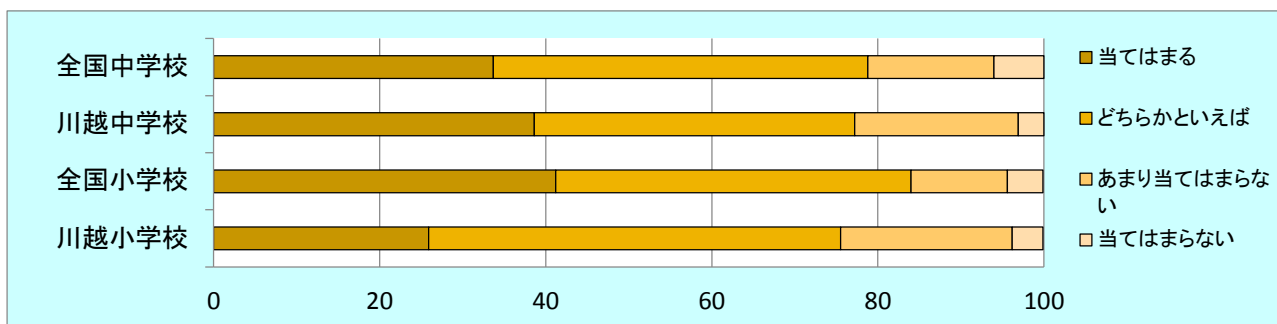
Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



⑤自尊感情

***自尊感情の高い子どもの割合は、中学生は高いが、小学生はやや低い。**

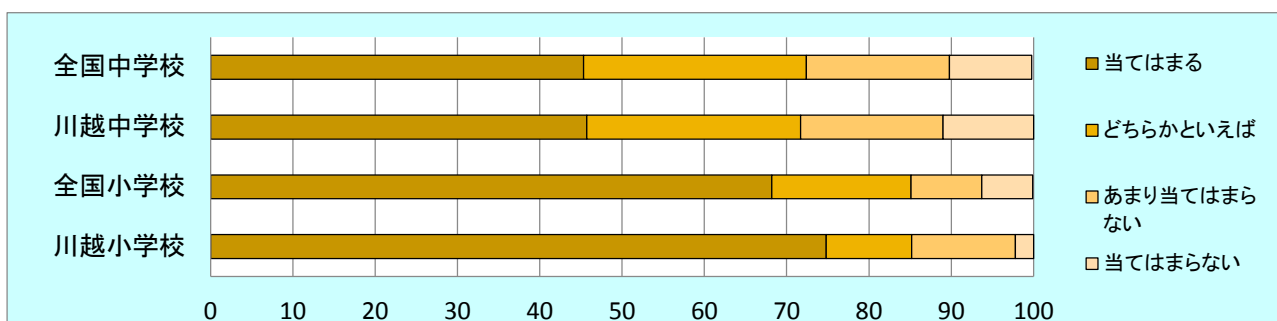
Q：自分には、よいところがあると思いますか。



⑥キャリアの形成

***小学生・中学生とも、概ね将来の夢や目標を持っており、特に小学生においてその割合が高い。**

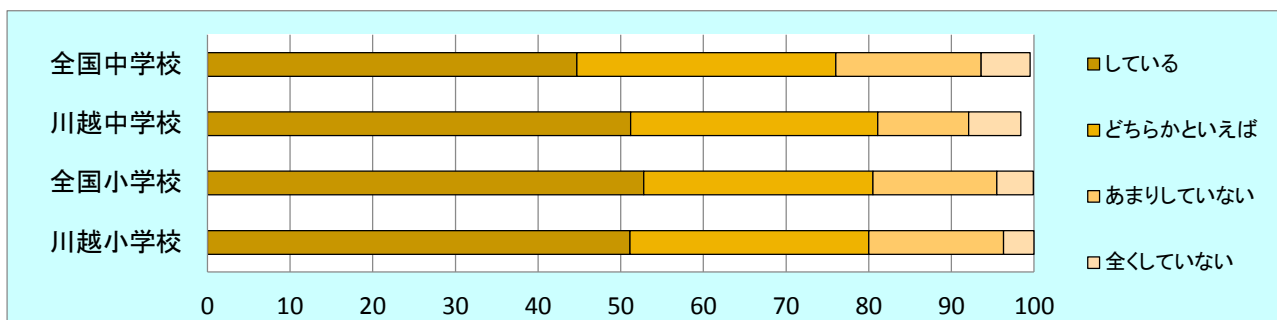
Q：将来の夢や目標を持っていますか。



⑦家庭でのコミュニケーション

***約20%の児童生徒が、家の人と学校の出来事について話をしていない。**

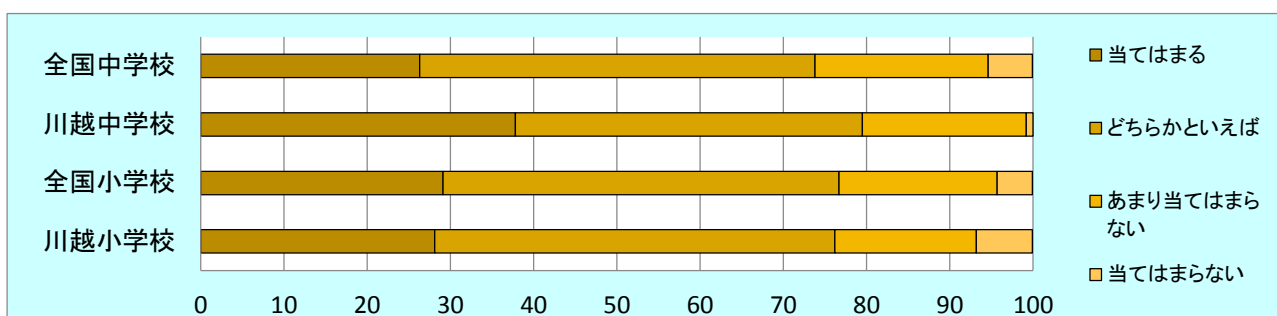
Q：家の人と学校での出来事について話をしていますか。



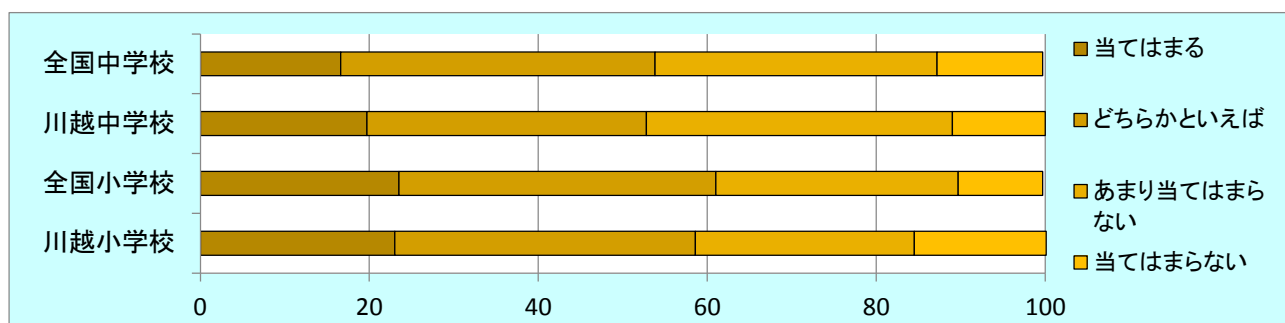
⑧主体的・対話的な深い学びについて

***小学生・中学生ともに、主体的に学習しようとする児童生徒の割合は約80%となっているが、自分の考えをうまく伝えるように工夫して発表することが苦手な児童生徒の割合は40%を超えている。話し合う活動ができている児童生徒の割合は発達段階に合わせ伸長していることが伺える。**

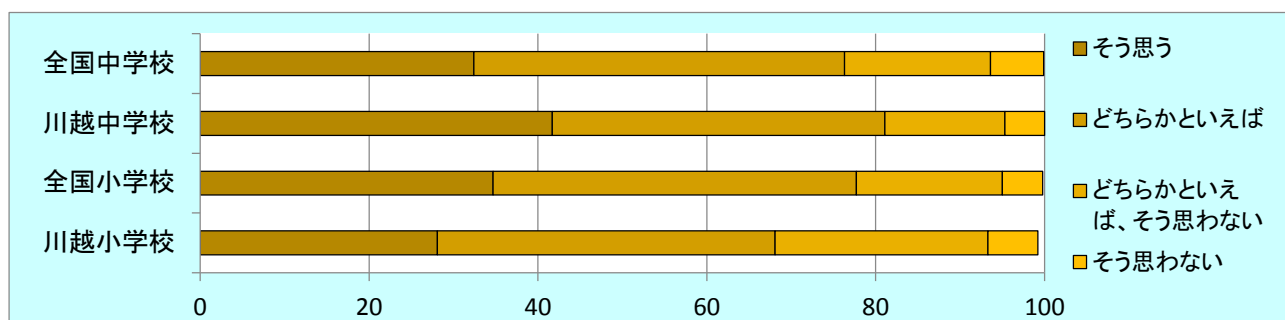
Q：今まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



Q：今までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



Q：児童・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



(4) 学校質問紙の結果からみえる児童生徒の姿

①落ち着いた学習環境の維持（学習規律）

「児童生徒に対して、学習規律（私語をしない・話をしている人の方を向いて聞くなど）の維持を徹底したか」という問いに対し、小学校では「行った」、中学校では「よく行った」と回答している。これに対し、児童生徒質問紙において、小学生の85%、中学生の98%が、「学校のきまり（規則）を守っている」と回答しており、学校の取組と児童生徒の受け取りがおおむね一致している。

当町小中学校で共通した『学びのルール（川越スタンダード）』により、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている。このことが、普段から粘り強く学習課題に取り組む子どもたちの姿に表れており、無解答率の低下につながっている。

②やる気を生み出す個別評価（自尊感情）

「学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童（生徒）に伝えるなど積極的に評価したか」という問いに対し、小中学校とも「行った」と回答している。また、児童生徒質問紙において「自分にはよいところがある」と肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、小学生87%、中学生84%という結果であり、それぞれ昨年の割合から10ポイント以上の上昇がみられる。

クロス集計によると、各教科において、「自分にはよいところがある」と回答している子どもの方が正答率も高いという結果が出ている。自尊感情の育成には、学校生活の中で仲間と経験や感情を共有することが重要な要素となる。主体的・対話的で深い学びと自尊感情の高まりは相乗効果を促す。一人一人のよい点や可能性を見つけ、積極的に評価および承認を行ったことが、自尊感情の高まりへとつながっている。

③キャリア教育の推進

「児童・生徒に対して、前年度までに将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」「職場見学や職場体験活動を行っていますか」という問いに対して、それぞれ小中学校とも「行った」と回答している。これに対し、児童生徒質問紙において「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、小学生85%、中学生72%という結果であり、多くの児童生徒が将来の夢や目標を持つことができているといえる。

当町では、小学5年生を対象とした「夢の創造推進事業」、中学2年生を対象に「自分発見！中学生・地域ふれあい事業（職場体験）」を実施しており、自分の将来について見つめ考える時間を大切にしている。キャリア教育の視点を大切にした日々の教育活動の成果が表れている。

2. 教科に関する調査結果から見えてくることと対策



(1) 小学校

国語

- 物語文などの文章から、登場人物の心情を読み取る力に課題がある。
- 与えられた文字数や条件に合わせて、よりよくまとめたり書いたりする力に課題がある。

算数

- 図形領域の問題については理解できている児童が多いが、数学的表現を用いて自分で考えたことを文章で説明する力に課題のある児童も多い。
- 小数の除法の意味が十分に理解できていない児童が多い。
- 割合（百分率）を求める力に課題がある。

理科

- 複数の情報を関連付けながら、分析して考察する力に課題がある。
- 目的に応じた実験道具を考えたりイメージしたりする力に課題がある。

(2) 中学校

国語

- 文章からその状況をイメージし、話題や話の方向性を捉える力に課題がある。
- 文脈に即して語句を正しく使う力に課題がある。
- 説明文において、文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えたり、文章の構成や展開について自分の考えをもったりする力に課題がある。

数学

- 与えられた情報を的確に処理した上で、割合を求める力に課題がある。
- 確率について理解し、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することを苦手としている生徒の割合が多い。

理科

- 気団の特徴についての知識を身に付けていない生徒の割合が多い。
- 科学的に探究する実験の結果をまとめたグラフを正しく分析・解釈することができていない生徒の割合が多い。

(3) 課題を解決するための手立てや指導改善について

全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、児童生徒自身が「何を学んだか」「どんなことができるようになったか」を実感できるよう授業改善を進める。

1. 「めあてとふりかえり」（目標の提示、振り返り活動）のある授業の徹底を図り、子どもたちが「できた」と実感が持てる家庭学習へつなげる。
2. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。
3. 自分の考えを整理して書く力をつけるためのノート指導を行う。
4. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 書くことの指導の充実
 - ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。
2. 語彙（ごい）を豊かにする指導の工夫
 - ・文脈に即した漢字や語句を習得するために、例文やフレーズで覚える学習を数多く取り入れる。
 - ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりする。読書タイムを設定するなど、各校において読書活動や学校図書館での活動を工夫する。
3. 自分の考えをまとめる活動の充実
 - ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふりかえりの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。発達段階や内容に応じて、字数制限などの条件を与えて書かせるようにする。
 - ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。
4. 短時間で文章から様子やあらすじをイメージし捉える力をつける。
 - ・初めて読む文章から得た情報を整理し、短時間で大まかな「あらすじ」をつかんだり、登場人物の心情について確認したりする学習活動を行う。

算数・数学

1. 基礎的な力をつける時間の確保
 - ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。
2. わかる授業を目指した授業展開の工夫
 - ・日常生活や社会の事象や数学の事象から課題を見出し、児童生徒が主体的に取り組める授業を展開していく。
 - ・数学的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
 - ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
 - ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。
3. 割合の理解に向けて
 - ・「○割引」「○%増量」「打率○割○分○厘」「勝率○割」など、日常生活の中で割合は登場する。このような割合を、算数・数学に限らず、教師が様々な教科・教育活動の中で使うよう意識し、子どもたちの日常生活の中に多く取り入れるよう心がける。

理科

1. 生活科から始まる「遊び」「体験」活動の充実
 - ・学習対象に深く入り込み、価値や疑問を見出し、自分で調べたり考えたりする活動を繰り返し行う。
2. 観察・実験結果とその要因とを関連付けて考える活動の充実
 - ・観察・実験をするだけでなく、予想や仮説を設定し、観察・実験後に検証する。また、その結果からさらに考え合う活動を設定する。仲間の考えを聞き、自分の考えをより妥当な考えに改善するための時間を確保する。
3. 学習を通して得た知識を日常生活等に当てはめて考える（活用）活動の充実
 - ・日常にある当たり前のことを、理科の知識で説明できるようにする。
 - ・身近に始まり、身近で終わる授業展開を工夫する。
4. 複数の情報を関連付けながら、分析・考察させる活動の充実
 - ・適切な情報をグラフや図、文章の中から探す機会を設ける。
 - ・複数の情報を比較させ、共通点や相違点を見つける場面を設定する。



3. 町教育委員会による手立て

(1) 少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的・基本的な力の向上を目指します。

(2) きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員の配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人一人の子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

(3) 学力向上推進委員会の機能的な運営

川越町学力向上推進委員会において、各学校の児童生徒分析や取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

(4) 校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教育委員会の指導主事が各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を拡充します。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

(5) 家庭学習および読書活動の推進

三重県下で展開されている学力向上県民運動と連動しながら、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、「家庭学習の定着に向けた取組の必要性および具体的な家庭支援法」を各家庭へ呼び掛けていきます。また、「読書旅行（読書日本一周・読書世界一周）」の取り組みを推進し、小学校低学年から語彙量（ごいりょう）を増やしていきます。

(6) 自己有用感の向上

「子どもが挑戦する場」を学校や家庭・地域で引き続き意図的に設定していきます。これらの機会を生かし、子どもたちの活動の結果だけを見て評価するのではなく、個々の伸長を見つめ承認していくことで自己有用感の向上を図ります。「挑戦」→「自信」→「成長」→「興味・関心」→「挑戦」・・・というサイクルを大切にして児童生徒の自尊感情を高めていきます。